

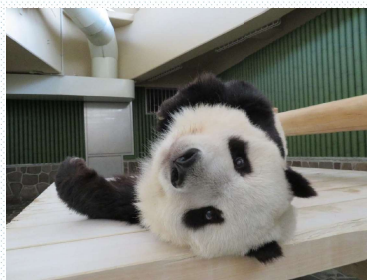
きょうのタンタン

～ 心臓疾患を発症後、約一年半経過した現在のタンタン ～

神戸市立王子動物園

梅元良次

タンタン 27歳 ♀



1995年

9月16日臥龍ジャイアントパンダセンターで誕生

2000年

み興興と共に王子動物園に来園

2021年

3月に加齢による心臓疾患の症状が見つかる。

現在

観覧中止を行いながら治療中

本日、お話しする事

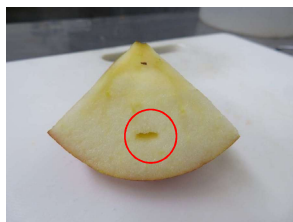
- 投薬の工夫
- 施設改修
- 専門家との連携した健康管理

投薬の工夫

- 早い段階での投薬方法の確立
- 今まで連続で一週間程度の投薬しか行った事が無い

【投薬の工夫：その1】

- タンタンの好物のリンゴ、ブドウを使用した投薬



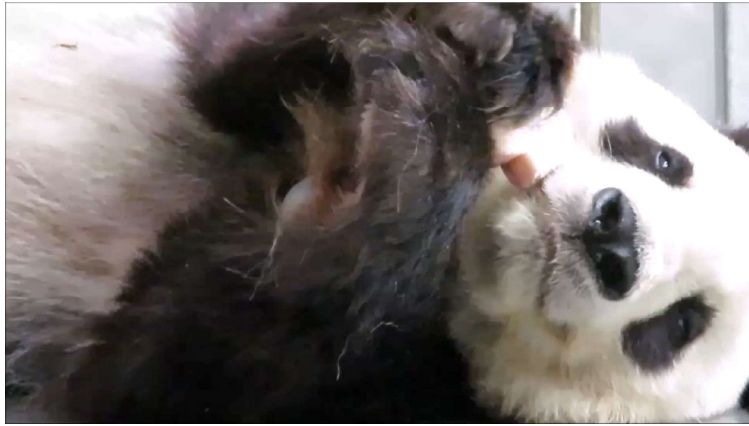
- 一週間ほどで警戒し始め、二週間経つとリンゴ、ブドウを嫌がり始める

【投薬の工夫：その2】

- リンゴ、ブドウをミキサーにかけ、ペースト状にした物を凍らせる。



- 二日目には警戒し始める。

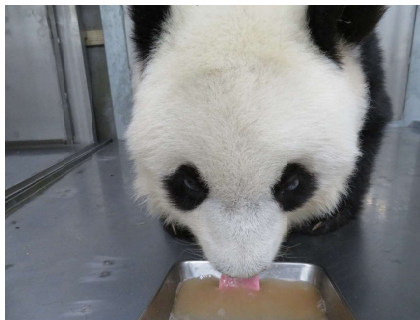


【投薬の工夫：その3】

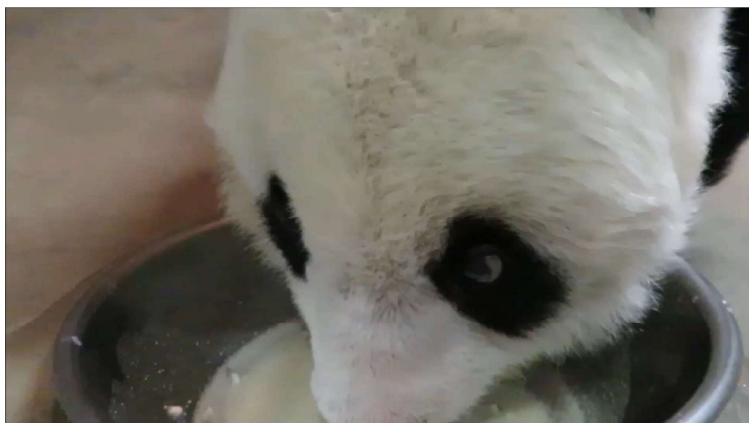
- サトウキビに穴を開け薬を入れ、臭い消しと味を誤魔化す為、薬を隠すように二つを重ねて冷凍する。



【投薬の工夫：その4】



固形、ペースト状の物
では無く、液体の物を
試してみる。

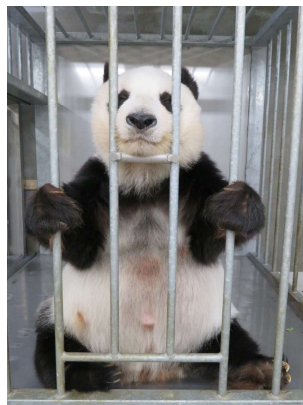


施設改修

筋力、体力の低下に伴う、設備面への工夫

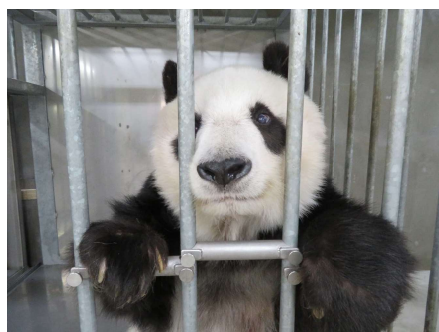
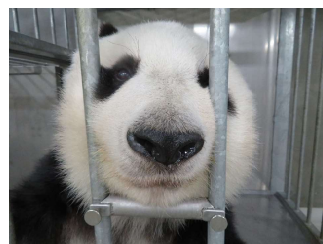


(2021年1月頃のタンタン)

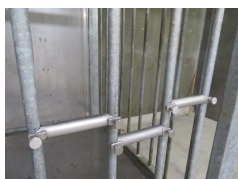


- ・ 診察時に座っている状態が維持し辛い様になってきたので、顔を支える為に頸置き用のバーを設置する。
- ・ 診察時の獣医師への危険回避。

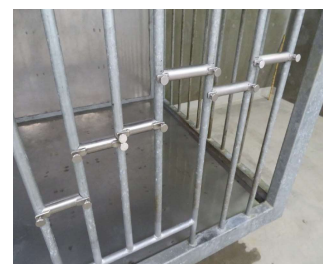
(2021年9月)



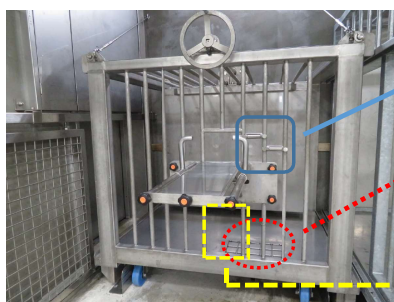
(前肢用のバーを設置後)



トレーニング用ケージ【大】



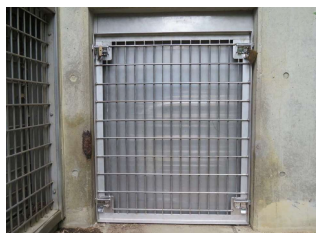
トレーニング用ケージ【小】



(放飼場への扉)

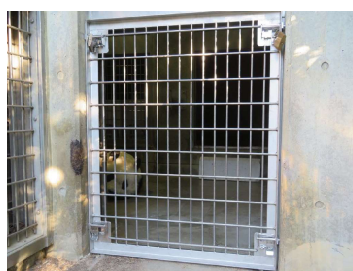


(格子設置後)

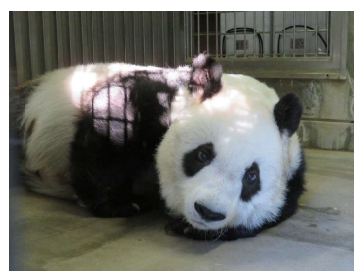


- 暑さなどによるタンタンの体調変化を考慮し、屋外への出入りが出来なくても日光浴が行える様に、**格子状の扉**を設置。

(格子付きの扉のみ)



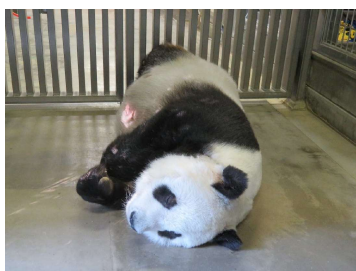
(日向ぼっこ中のタンタン)



(通路から見た様子)



(熟睡するタンタン)



エアコンによる通路の温度管理を行う。

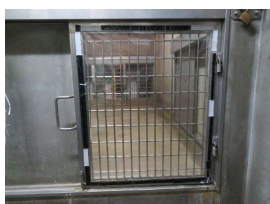
酸素室

タンタンの心臓疾患による影響を軽減するため、屋内寝室に酸素供給装置を設置し、室内の酸素濃度を高める。

(酸素供給装置)



酸素室 (寝室)



専門家との連携した健康管理

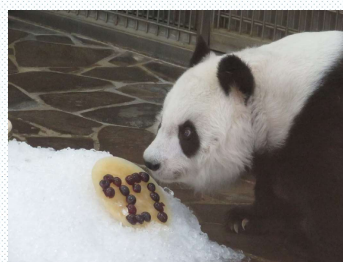
- 中国ジャイアントパンダ保護研究センター
- 大阪公立大学



中国大熊猫保護研究中心

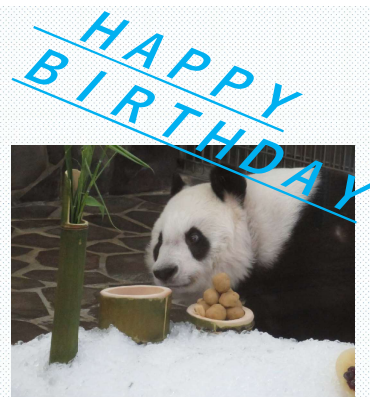


大阪公立大学大学院
獣医学研究科
島村俊介 准教授



2022 9/16

タンタン 27歳の誕生日の様子



心臓疾患により**体力の低下**などがみられ、この一年でいくつも**飼育方法、治療、施設**の見直しが必要になってきた。タンタンの年齢も考慮すると、これからも様々な問題が出てくると思われるが、飼育、獣医師、専門家の先生達と協力して、これからもタンタンの身体負担が軽減出来る様に取り組んで行きたい。



～ご清聴ありがとうございました～